

平成25年度 第8回高山市教育委員会定例会議事録

1. 日 時 平成25年9月25日(水) 午後1時30分から
2. 場 所 302会議室
3. 出席者 委 員 打江委員長、北村委員、針山委員、中村教育長
事務局 関事務局長、田中教育総務課長、中野谷学校教育課長、浦谷文化財課長、森下給食センター所長、教育総務課石原
4. 欠席者 委 員 保谷委員
5. 署名者 針山委員

午後1時30分開会

○打江委員長 本日の委員会は、出席委員4名で、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項の規定に基づき、定足数に達していますので、成立しております。ただ今より、平成25年度第8回高山市教育委員会定例会を開会いたします。

○打江委員長 会議録署名委員の指名を行います。
本日の会議録署名委員は、「針山委員」を指名いたします。

○打江委員長 前回定例会及び第7回臨時会の会議録の承認を行います。
前回定例会の会議録について「北村委員」お願いいたします。

○北村委員 前回の定例会会議録について、精査した結果、記載事項について適正に調製されておりましたので、署名しましたことをご報告いたします。

○打江委員長 ありがとうございます。
それでは、前回定例会の会議録についてご承認いただけますでしょうか。

(異議なし)

○打江委員長 前回の会議録は、調製のとおり承認されました。

○打江委員長 次に、第7回の教育委員会臨時会は、高山市教育委員会事務局職員の人事異動の事前協議についての議題であり、書類の持ち回りで臨時会を開催しました。私が精査しました結果、記載事項について適正に調製されておりましたので、署名しましたことをご報告いたします。

○打江委員長 それでは、第7回臨時会の会議録について、ご承認いただけますでしょうか。

(異議なし)

○打江委員長 第7回臨時会の会議録は、調製のとおり承認されました。

○打江委員長 次に、中村教育長から報告がございます。

(教育長報告)

○打江委員長 それでは、日程第1、議第14号「平成25年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について」を議題といたしますが、当議題につきましては内容に個人に関する情報が含まれておりますので、法律第13条第6項ただし書の規定により、公開しないこととしたいと思います。

○打江委員長 それでは、ただ今お諮りしました議第14号は、公開しないこととすることにご異議ございませんか。

(異議なし)

○打江委員長 ご異議なしと認めます。よって、議第14号は、公開しないことに決しました。

○打江委員長 それでは、改めまして日程第1、議第14号「平成25年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について」を議題といたします。
事務局より説明願います。

○中野谷学校教育課長 <資料に基づき説明>非公開

○打江委員長 事務局の説明は終わりました。ご質疑等はありませんか。

(非公開)

○打江委員長 ご質疑も尽きたようでありますから、以上で質疑等を終結いたします。

○打江委員長 それでは、ただ今議題となっております議第14号について、事務局説明のとおり決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

○打江委員長 ご異議なしと認めます。よって、議第14号について、事務局説明のとおり決しました。

○打江委員長 次に、日程第2、報告16「いじめ・不登校問題の対応について」を議題といたしますが、当議題につきましては、内容に個人に関する情報が含まれておりますので、法律第13条第6項ただし書の規定により、公開しないこととしたいと思います。

○打江委員長 それでは、ただ今お諮りしました報告16は、公開しないこととすることにご異議ございませんか。

(異議なし)

○打江委員長 ご異議なしと認めます。よって、報告16は、公開しないことに決しました。

○打江委員長 それでは、改めまして日程第2、報告16「いじめ・不登校問題の対応について」を事務局より報告願います。

○中野谷学校教育課長 <資料に基づき報告>非公開

○打江委員長 事務局の報告は終わりました。ご質疑はございませんか。

(非公開)

○打江委員長 ご質疑も尽きたようでありますから、以上で質疑を終結いたします。

○打江委員長 次に、日程第3、議第15号「高山市教育委員会点検評価について」を議題といたします。事務局より説明をお願いします。

○田中教育総務課長 <資料に基づき報告>

○打江委員長 事務局の説明は終わりました。ご質疑はございませんか。

○針山委員 前にこういう資料をもらいまして意見のある方はわかる範囲で意見を欲しいということで照会がありまして、私は分かる範囲で感じたことを出ささせていただきましたが、それはこの点検評価にどう反映されたのか教えていただきたいと思います。

○中野谷学校教育課長 針山委員さんからであい塾と特色ある教育活動についてご意見をいただいております。であい塾に関しては針山委員さんからも活動はよくやっているということは認めていただいておりますが、ただしその評価をAにするの

がいいか、Bにするのがいいのかというところで、今後であい塾の活動を盛り上げていくには評価がどうあるべきかというところで意見を頂いています。現在のところ教育研究所の評価はAということになっているんですけども、これに関しましては点検評価の委員の方からもあい塾は良く頑張っているという言葉頂いたので、現在のところA評価のままになっているということでございます。特色ある教育活動というところではマンネリ化で少し工夫が不足しているのではないかとご意見をいただきました。そういう点は若干ありますけれども今年度ふるさとと協働する学校づくりというところで、例えば花でしたらただ自分の学校で花を育てるということだけでなくそれを町内会であるとか、公民館であるとか、そういった地域の方にも貢献できる形で活動を広げていく、といったふるさとと協働するという視点での動きがあるということで現在のところ評価は高くなってAという評価になっています。意見としては聞かせていただいて、であい塾に関して言えばこれから盛り上げていきたいということは全く同じ思いでして、その評価はどちらがいいのかということに関してはここでもご意見を頂きたいなと思います。

○針山委員

このAやBという評価は点検評価委員が付けられたのではなくて、この市の評価を出して点検評価委員が更にこれでいいのかチェックをされたということですね。ただ、点検評価委員さんには確かにしっかりした点検や評価をしていただくのですが、本当に現場を分かっているのか、我々教育委員もそれ程分かっていないかもしれないが、Aだとこれ以上改善する必要がない、予算も付けなくてもいい。だからであい塾でも多分Aということはバスを出したことを点検評価委員が聞かればそれはいいことだと思われると思う。点検評価委員の最後のところに将来に向けて民間活力の導入、検討、現状における予算編成権限を持つ市議会、市長部局への努力を努めたいと書いてあるんですが、事務局の方としてもソフトの面というのは非常に目に見えないので、我々が見てきてここにもっとつけてやりたいというところがあるんです。そういうソフトの面のところの予算を取るための我々へのサジェスションがないと、確かにハードには何十億という予算がつくけれども、本当に子どもたちに必要な予算がつかない。たまたま特色ある教育活動については学校訪問の際に聞かせていただいたので、20万という予算があるからそれを有効に使うということ。これは非常にいいことですが、それはAなのかもしれないけれども、もっともっと現状がどうかということ点を点検評価委員の方が本当に分かっているのか、それから細かくてなかなか我々教育委員もタッチしたり見たところしか意見を述べられないんですが、このままはいはいということでは、せつかくいろいろ書いたりしたこと思いが伝わらない。Aでは今後なんとかしようよということにならないので、現実の予算執行も含めて向かっていっていただきたいなということをおもいました。全体面にも書かせていただいたが、本来は教育委員会でソフトや子どもたちのためになるところに予算を付けたいなということをおもいましたので言わせていただきました。

以上です。

○打江委員長　これを見ておいて、10月1日に何か要望があればということですか。

○田中教育総務課長　10月1日にまたお聞かせいただければ、その時点で直していきたいと思いますが、今ほどの話の中で補足、私どもの反省を含めてですが、点検評価委員さんにヒアリング1回で、担当職員が判断したものをご覧いただいて作成に至っていますが、針山委員さんからもありましたように、本当に現場のことが分かった上で、これでいいよという判断、講評をいただいているのか少し不安・疑問を感じている部分がありまして、点検評価委員さん自体がもう少し具体的に現場や実態を確認していただけるように今後の説明の仕方も含めて検討する必要もあるんじゃないかと思っております。ここで評価しておるとおりほとんどがAとBなんで、今までの予算どおりでいけばそれで教育委員会として充実しているんだね、という話を作り上げるためのものではございませんので委員さんが今ご指摘されたことを十分頭に入れて今後の評価や予算確保について検討してまいりたいと思っておりますのでお願いします。

○中村教育長　5人の委員が顔を見てこの評価は違うとか、この中身ならこの評価でいいのでないとか、この評価は厳しすぎるとか、高すぎるといような論議はしていないですよ。それをしなかったらこの点検評価を外部点検評価委員に見てもらったり、ヒアリングを受けて次の施策に生かすということにはならないと思う。そこをまずやらなければならない。もうひとつは講評いただいた32頁から34頁に書いてあることを我々5人の委員がどうとらえるかということと同時に、貰ったものを今見せてもらっているだけだが、もらった事務局がどう考えたかがないところへ出してもらう意味もなさないということが針山委員の主張だと思うし、私もそう思います。例えば34頁の最後の部分だがこのように書いてもらっても市議会や市長部局は努力しませんよ。事務局と5人の委員がこういう所に向けて何を発信や努力をするかによってしか動かないので、そこについて例えば事務局から提案があるならしてほしいし、提案がないとしたら我々委員の中でこういうことを話したり、訴えたりする機会を作ってくださいといようなことをやらないとおそらく予算等には反映されないと思います。その辺りは幸いなことに針山委員さんが前職が議員さんですので、議会が何か動くときはどういう手順でどういうことが来た時に動きやすいということはお承知なので、ご提言をいただけるとありがたいというようにさえ思っています。それから細かく言うといくつかあって、33ページの④の保健相談員の資格化について、この間の委員会の時に言及されたので苦しい言い訳のようなことを言ったが、本来願っているのは当然資格化だが、内部で願っているだけではどうしようもないので、こうしていいんじゃないかといようなことを論議して事務局として施策、予算化

に向けて動くように言わないと進んでいかない話だと思います。今日も時間は余りないが、1日はやらなければならないことが2つあってそれだけでも時間をとるということもあるし、新しい委員さんにこのことをいきなりどうでしょうかといっても大変申し訳ないが恐らくおわかりをいただけないと思われるので、少しでもやる必要があるのは今日のこの会かなと思うのですがいかがでしょうか。是非一回ぐらい市長部局との懇談・面談みたいなものやってみなさいとか、あるいは学校訪問をやっているが、校長先生達がそれぞれ願っていることを生で聴くような機会もないのでそういったこともやっていく必要があると思う。私のポジションでは微妙なので委員長名をもって意見交流や意見聴取等を具体的にしていくことはしなければいけないことだと思います。どんどん日時がいくことなので大変申し訳ないと思いますが。

○針山委員

我々教育委員こういうものが出てきてもそれぞれ仕事があつてなかなか目を通せないし、例年こう書いてあるのならそれならこれでいいのかなというところもあるが、何かこの中でここをもう少しということがあつて、重要ポイントとしていくのであれば教育委員会としても一緒になってディスカッションする場がないと意見というものはまとまらないので、ひとつ教育委員会でこういう形で提案していこうとする何が今後必要だと思います。「こういうことに対する意見をください」ということも、意見の募集があるから意見がでるわけなので大事だと思います。

○北村委員

私自身の反省でもありますが、それぞれの事業についてははっきり言って事務局の方任せのことがほとんどだと思っていますが、事業の中身についての認識ですとか関わり度合いというものは非常に低かったように思います。かといって全ての事業に関わり合うということも不可能なことだと思います。針山委員の意見を聞いて思ったには、高山市の教育の柱というか今年度の中心的事業が明確になれば、それについての教育委員会としての取り組みを一年を超えた流れをつくっていくようなことができればいいのではないかなという思いがあります。年度の中心的事業、高山市の教育の柱に関わることに、私たちはもっとこんな事業を仕組むべきとか、こんなことで予算を取っていくとかというような話し合いができたらいいいと思います。例えばIT化をすすめていくというようなことについて、高山市の教育の将来展望も見据えながらここ何年かでこのようなことを計画し実施できたらいいなというように一つの共通の思いがあれば、話も深まっていく。ただ点検評価そのものが形骸化し、言ってみれば評価委員の方たちのやることも形骸化してしまう、ということにもなりがちなかなと思います。一番教育委員会の今のあり方は大問題であるということは日本中で叫ばれている中で私たちが教育委員会としてかくあるべきとまでは言えないかもしれないが、出来る限りやっている姿はつくっていただいた方がいいと思います。

○針山委員 教育総務課と学校教育課とあって、教育総務課は形のを予算を取ったりしていかなければならないが、学校教育課の方にはもっともっといっぱいやっていただきたいことがあると思うんですよ。子どもたちのために予算がつけばできるのということがあり、そちらの方が子どもたちにとってプラスになるので、両方を管理してみえる局長さんがみえるので、形を取ってすすめることは当然予算を取ってすすめるんですが、学校現場にはもっと目に見えない我々にはわからないものがあるはずだと感じています。そういったものがなければ素晴らしくて、全部A評価で良いけれどもその辺りを学校教育課としてはこういう風にやっていきたいというものを持ってきていただいて、それを我々が議論するような形に持っていくのが本来じゃないかと思います。

○打江委員長 このようにたくさんの事業がある中で、全てを私たちが網羅するのは無理があると思います。私たちも本年度の目標や、大きな目標、今後高山市の子どもにとって目玉となる事業については事務局が事業を考えられる際に一緒に話に入ってすすめていきたいと思いますので、時間を取っていただくようにしたらどうでしょうか。

○関教育委員会事務局 長 今日提出してます資料の後の方の1ページを見ていただくと教育委員会点検評価の実施規則がございまして、これの3条を見ますと点検評価委員さんというのはあくまでの学識経験者として意見を聞くということでございますので、これが全く決まってしまったという認識ではなくて、これを基に教育委員会として最終的に点検評価を行うということで、それは12月末までに最終的な公表をしていくということで、まだ時間はございますので、まずは今年につきましてはこれをこのまま公表していくのはまだ論議が十分とのことでございますのでまだ事務方と十分詰めてはいませんが時間も時間はあるということですので次とか次の委員会でもまだ間に合うと思いますのでそういった中でもう少し論議を深めていただいて最終的な評価をお決めいただければと思います。というような方法で今年度はいかがかということ、それとこの中身は24年度の事業ということで私も反省していますが、ちょっと遅すぎるということもあって、議会の決算も認定が終わっていますし、来年からもう少し早めて時間もしっかり取って論議していただくことも可能なのではないかとということも今お話を承りながら思いましたので、この点検評価につきましては次回かその次の委員会でもう少し論議を深めて頂きたいということで今年はずすめていきたいと思いますがいかがでしょうか。

○中村教育長 論議を深めるべき部分はこの評価の中身の評価はほとんど問題にならないので、要はこの評価をしたことが平成25年度にどう生きているのかや26年度の教育委員会の施策や、力を入れていくようになっていって初めてこの点検評価というものが生きるんであってAやBを付けたり、コメントが書かれ

る、そんなことはどうでもいいくらいの感じだと思います。確かについた予算をこんな風に使ったので良かったというのも大事かもしれないけれども、そんなことはさしたる問題ではないので今事務局長が言ってくれたように今後に向けての話としてこれを載せていくかいかないかというような話はほとんどどうでもいいので、この評価が覆ることはないと思っています。また決算議会は済んで承認されたのでこれをとやかくいう話ではない。もしあるとすれば12月までに公表するので一般質問で質問が出てくれば出てくる。出てくるとするとそれを受けて25年度はどうやっているの、更に言うと25年度もこれだけ進行しているので26年度に向けてどんな施策をうつのかということが質問として出てくる。僕が議員なら必ずそのように聞きたい。そのところを私たちが事務局、是非このような予算取りを頑張っていこう、こういう事業に絞ってみようかねということをしたならばこの5人で意見を出し合って、もちろん、我々だけでなく事務局である、教育総務課、学校教育課、文化財課の考えと共有されないといけない。そんな意味で次回是非時間をとっていただければと思います。

○打江委員長　それでは質疑を終結します。ただ今議題となっております議第15号について事務局のとおり決することにご異議ございませんか。

○関教育委員会事務局長　この件についてはお決めいただいてもよろしいんですが、継続審査のような形を取っていただければと思いますが。

○打江委員長　それでは継続事項としてお願いいたします。

○打江委員長　次に、日程第4、報告17「平成25年度全国学力・学習状況調査の結果について」を議題といたします。
事務局より説明願います。

○中野谷学校教育課長　＜資料に基づき説明＞

○打江委員長　事務局の説明は終わりました。ご質疑はございませんか。

○中野谷学校教育課長　是非教えていただきたいのは、何年か子どもたちの様子を見ていただいていると思いますが、子どもたちが変わってきているかどうかということも含めて子どもたちを訪問で見られた様子等をご意見いただけると助かります。

○打江委員長　小学校は全国平均以下で、中学校に行くとどうして平均以上になるのか。何かそういう要素はありますか。

○学校教育課牛丸 専門性ということ考えた時に、国語と算数に関して言いますと小学校には国語と算数の専門家ではない方が担任としてあたるのがどうしてもある中で、学校の研究体制であるとか、研修のあり方、学校での授業のすすめ方がきちんと行われている学校と、そこが段々担任任せになって不十分になっているところに実は差が生まれきたのではないかというのが今回の分析です。そこが今回のことで分かったのでここの部分の意識を持っていただくことや、国語を専門でない担任の先生方にも如何に大事なポイントを分かっていたいただきながら指導に当たっていただくかということが今後の課題であるということが今回の結果の分析から感じましたし、校長先生、教頭先生、教務の先生にもお伝えしていく必要があると思っています。

○中野谷学校教育課長 「つたえる、つなげる」ということは市教委で5年間やってきたことでして、今総括的には一定の効果はあったけれども、現実問題として学校差というものがあったりして次の段階が必要ということで、来年度どうしていくかという話につなげていかなければならないが、訪問で子どもたちの様子見られて感じた点がございましたら是非聞かせていただきたいと思います。

○打江委員長 何年か見てきて、始めは「つたえる、つなげる」ということは何となくしっくりこなかったんですけども、ここ数年見ててすごく先生方も努力されていて子どもたちにつなげようとか、そういく感じがみえてきているなということを感じましたし、子どもが話すということは考えることなので、考えさせるということはその前に大事なかなと思います。やっぱり先生にも伝える力とかつなげる力、そういうものがもっと必要な先生もみえると思いますし、ただ「話せ」というだけでは全然伝わってこないと思います。その辺りを先生も話す言葉であるとか、伝える力ということも大事なかなと思います。各校にこれだけの差があるということは、公立学校なので公平性ということを考えると、指導に高低があるのかなということも思いますし、子どもも毎年違うので感じも違うと思いますし、でもやっぱり言語活動ということはとても大事で、それを見てみて非常によかったかなと思います。

○北村委員 子どもの姿が大きく変わってきたかと聞かれるとはっきり答えるのが難しい。子ども達にはまず形からしっかりさせて、形から入らせていくことを徹底させていきたいという姿。例えば〇〇さんにつなげて言いますというようなことをしっかり子どもに意識させて、そこから学力の向上につながってきているということについては感じます。例えばハンド作業もそうだと思いますけれども、別にハンド作業が素晴らしいということではなくて、手段として授業の中に取り入れられ、それが子ども達の集中力や思考をまとめていくのに役立っているということが少し感じております。もう一つ今思ったのが高学年の教科はやはりある程度専門性を発揮してもらった構成が必要かなと思います。英語も入ってきているのでその点については専門性がないと何ともしな

らない部分があると思いますし、算数、理科などについても専門の先生がやられることによる効果は特に高学年について非常に期待できると思います。

○針山委員　私はまだ一年なので、少し別のことをお聞きしたいんですが、小学校で結構差がありました。全体的に低いということではなくて、小学校間で差がある。それは分からないけれども、ひょっとしたら少人数学級の問題、30何人のクラスか、18人のクラスが2つというようなこともあると思いますが、それによっても多少差が出るのかなとも思いますが、その辺りを分析されるといいのかな、マンモス校とかそういうことだけでなく低学年の頃から能力は開発されると上につながっていくので、その辺りの分析をしてみると、少人数学級がいいとか、やっぱり先生の質であるとかというような分析にもつながるのではないのでしょうか。

○学校教育課牛丸　学校に所属している生徒数との関係についても見させて頂いてはいますが、35人から40人のクラスは上位の方には来ていないということは結果としてはあります。また、10人とか20人とか少ない学級が上位に来るかというところもそういう訳でもない。ある一定の人数、その数ははっきり言えないが、35人を超えると上の方には来ていないので、少人数の良さを裏付けるものかということで見えています。

○北村委員　結果を見ると東北地方と北陸地方が高い。ぼくはその理由が全然わかりませんけれども、金沢や福井県の学校を訪問した時に、特別「これ」というものを感じたわけでないが、子どもは落ち着いているという感じはしました。その辺りは学校の先生としての専門家として、東北、北陸は何故なのかということでは分かっただけで良いですけども教えていただきたいと思います。

○打江委員長　数学Bは全国で3位ということですか。

○学校教育課牛丸　岐阜県が3位ということです。50に行っていない中での3位なのであまり大喜びもできないですが。

○北村委員　県の教育長さんが学力をとにかく上げたいということを頭において指導してほしいとかなり強調されたことがあって、その辺りがより意識されて、このような結果がでたかなとも思いましたけれども、小学校が低いということが僕もどういう分析をしたらよいか分かりません。ただ中学校に行くと良くなるということなので少し安心材料です。学力についてだけの話なので何とも言えないところもあると思いますが。

○打江委員長　これが全てではなく、全て評価できるものでもないのですが、ここに書いてあるPDCAサイクルの期間を短くして本当に守れることを計画して結果をすぐ

確認できるようにした方がいいと思います。1年とか半年ではなかなか結果がみえないので。サイクルを数ヶ月くらいにしないと、ただただやっている結果も見えず、体制もとりにくくなるので、そういうことを考えていただくといいかと思いました。私も子どもが持ってきたので見せてもらいました。記載のように取り組みの内容を書いたものを保護者に対して配られるということですね。

○学校教育課牛丸 昨日の校長会を受けて、各学校で学校での取組や家庭でのお願いといった形で分析も含めて配布されます。

○北村委員 質問ですが、各学校は自校の平均点までは知ることができて、公表されているのは都道府県の平均ですね。例えば小学校では全国と比べて自分の学校はということが分かるが、高山市については分からないのですか。

○学校教育課牛丸 高山市の平均については、校長会等でお知らせしているので、市の中でのということは分かります。全国平均よりも上の学校が何校ということも言ったので、「あっここか」というような感じを持たれた校長先生もいらっしまったんじゃないかと感じました。

○北村委員 ということは、職員の皆さんも高山市の中での大体の位置も分かるということですか。

○学校教育課牛丸 分かるとは思いますが、校長先生は下だからというような指導はされないと、思いますし、そのようには指導していただきたくないと思っております。ただ、管理職としてはつかんでみえると思います。

○北村委員 どこかの状況を見ると教育委員会がしっかりしなければならないと思ったりもします。

○中野谷学校教育課長 今北村委員さんがいわれたように、校長以外の職員はどうかということですが、去年からなんですけれども同じプレゼンを校長会も教頭会も見えています。教務主任も見ている状況で、いじめや不登校に関しても同じ情報が教頭も教務も校長も共有できるスタイルを高山市の教育委員会は大事にしているところで、共通理解を図っています。

○北村委員 ここにも書いてあるように、この結果を受けてどう取り組んでいくのかということが一番大事で、現状認識はやっぱり必要だと思います。何もかも情報として出すのがいいとも思いませんが、現状を分析して次のアクションをどうしていくかということを考えてもらうためのテストであると僕は思います。

○打江委員長 小学校のところで、小学校6年担任中学校は教科対応、個人的な改善としないということはどういうことですか。

○学校教育課牛丸 6年生で出た結果というのは、これまでの指導の中での形が出てきているということ考えた時に、国語のこの問題ができていないということは4年生での指導のこういうところに弱さがあるんじゃないかということ分析的にとらえた時に、もちろん今の6年生をそのまま卒業させないということも大事なんです、学校としての弱さとしてとらえ、低学年の指導の在り方についても一緒に検討していくということが大事なのではないかということで校長先生方にもお願いをしております。各問題の正答率が全部学校の方でわかっているので、自分たちの子ども達のいいところや弱いところが分かり、問題ごとの狙いも解説書に書いてあるので、これを読むとこれから学校として課題として持ちながら指導していく必要がある。というようにして他学年にも返していくようにお願いをしています。もちろん年度によっての違いもありますが、それでとらえてしまうとそれで終わってしまうので、そこに出ている弱さは他の学年にもつながる弱さとして見ていくことができるのではないかとこの視点を持ちながら指導を振り返っています。

○打江委員長 後は分析等が大事だと思います。他によろしいですか。それでは次に、日程第5、報告18「科学作品展、わたしの道作品展及び図書館を使った調べる学習コンクールについて」を議題といたします。
事務局より説明願います。

○中野谷学校教育課長 <資料に基づき説明>

○打江委員長 事務局の説明は終わりました。ご質疑はございませんか。

○打江委員長 ご質問もないようなので以上で質疑を終結いたします。

○打江委員長 次に日程第6報告19「高山市教育委員会研究指定校公表会について」を議題といたします。事務局の説明をお願いします。

○中野谷学校教育課長 <資料に基づき説明>

○打江委員長 次に日程第7報告20「平成25年度高山市一般会計補正予算について」を議題といたします。事務局の説明をお願いします。

○田中教育総務課長 <資料に基づき説明>

○打江委員長 事務局の説明は終わりました。ご質疑はございませんか。

○打江委員長　これは議決されたものですか。

○関教育委員会事務局長　今日議決されたものです。

○打江委員長　以上で質疑を終結いたします。

○関教育委員会事務局長　補正予算関係で付けたしでございますが、教育費でなく総務費の環境政策ということで太陽光発電と蓄電池を避難所に指定されているところ、小中学校が多いんですが、に設置するというので、当初予算で5校分ついていました。プラス今の補正でまた5校分、計10校分太陽光と緊急時用の蓄電池から電源を供給してもらおうというシステムをそれぞれ導入する予算がついておりますので報告だけさせていただきます。

○打江委員長　では少し飛びましたが次に「後援名義使用について」の報告をお願いします。

○田中教育総務課長　＜資料に基づき報告＞

○打江委員長　ご質疑はありませんか。ないようなので、他に何かございませんか。

○針山委員　9月18日に宮中学校におきましてキャリア教育ということで、高山中央ロータリークラブ、青年会議所のメンバーが12のグループに分かれて子どもたちに色々な職業観や将来の夢等を聞きながら宮中学校全員にキャリアを持ってもらいたい、ということで行われ、そこに出席してまいりました。

○打江委員長　提案ですが、佐賀県で学力テストが悪かった。そこで奮起して子どもの学力を上げるために3万人くらいの市だったんですが、学力向上のために市が丸となって取り組んだ。という事例をテレビで話してみえて、その時に廊下に机を並べて近所の先生のOBの方等が教えてくださる事例と、もう一つケーブルテレビを活用して学校の先生が復習なりをしていて効果があったということを書いてみえてなるほどなと思いました。高山市にもケーブルテレビがあるので、これによって、佐賀では家族で学校の勉強のことも見るようになり、親も子どもの分からないところや、どこを勉強しているのかを家族が理解し始め、多分ある程度の学力も付いてきた。ということだった。ケーブルテレビの活用ということについて、運動会とかだけでなくALTも使ったり、学力テストの結果を発表するなど何かできないかなというようなことを一つの提案として加味していただければ面白いかと思いましたので、考えてみてください。

○関教育委員会事務局長　委員長の提案もすごくいいと思います。ヒットネットテレビで学力

テストの話を公表できる範囲で流すこともいいですが、実は教育長のご指示もあって市のホームページの中に教育委員会のサイトを作っております。例えばその中に委員長さんがいわれたような内容を公開するということも可能だと思いますし、インターネットの方が普及していますし、そちらからの方が手っ取り早いかもしれません。

○針山委員 ヒットネットテレビの件数が少ないと言っても、国府は全戸ですし、数万件にはなっていると思います。見ると面白いと思います。

○打江委員長 お金がかかることでもありますが、子どもがぱっと見れるものがあるといいと思いました。

○関教育委員会事務局長 パソコン室が使われていない時間が多いので、そこを使うのもいいと思います。

○田中教育総務課長 何を誰に伝えるのかをよく検討する必要があると思います。

○打江委員長 では10月定例会の日程をお願いします。

【10月24日 午前】

○打江委員長 それでは次回10月定例会は10月24日（木）午前9時といたします。また、10月1日には臨時委員会をお願いします。

○打江委員長 それでは以上をもちまして、本日の議事日程が全部終了いたしましたので本日の会議を閉じ、平成25年度第8回高山市教育委員会定例会を閉会いたします。

午後4時10分閉会